

特定非営利活動法人
福山市身体障害者団体連合会

第25号

福山市身連通信

2017 (H. 29) 年 1月

発行者 NPO法人 福山市身体障害者団体連合会
編集者 福山市身連 広報部市身連通信編集委員会
連絡先 電話 FAX 084-961-4733

目 次

新年のご挨拶	1
ふれあい福祉まつり 中・四国身体障害者福祉大会	2
身体障害者スポーツ大会	3
身体障害者スポーツ大会	4
福山市人事異動	5
広島県・市身障団体宿泊研修会	6
広島県・市身障団体宿泊研修会	6
連絡会議事抜粋	
編集委員会より	

明けましておめでとうございませす

特定非営利活動法人

福山市身体障害者団体連合会

理事長

三島 茂

事務局長

江草 忠儀

会計

白石 憲式

福山市身連会員の皆様、関連各協会の皆様明けましておめでとうございませす。

昨年は障害者関連法の最終的な障害者差別解消法が施行となり、福山市は市制100周年の年として各種のイベントを開催、私たちが福山市身連としては身体障害者スポーツ大会を初めて開催、そして広島カープは二五年ぶりのリーグ優勝と色々な行事などの多い年でした。

今年には市身連としては役員改選年であり、体制が一新するかと思ひますが一昨年二協会が消滅したように、構成する協会自体も高齢化が進み体制の維持そのものも厳しくなつていませす。新年を迎える度に高齢化することはいかんともしがたく、負けずに会員の皆様が元気で活躍される事を祈るのみでせす。本年も会員皆様のご健康で連合会の発展にご協力いただけるとを願つておひませす。

構成団体

福山市身体障害者福祉協会

会長 村上 友一

福山市視覚障害者福祉協会

会長 根本 敏太郎

NPO法人福山ろうあ協会

会長 金尾 千三

芦田町身体障害者福祉協会

会長 甲斐 賛

加茂町身体障害者福祉協会

会長 鎌刈 拓也

代行 藤原 信弘

福山車イス福祉協会

会長 坪山 明生

福山市難聴者・中途失聴者協会

会長 井上 佐智子

新市町身体障害者福祉協会

会長 三島 茂

神辺町身体障害者福祉協会

会長 田上 敬二

新市地区身体障害者福祉協会

会長 重藤 弘明

第四〇回ふれあい福祉まつり

とき 二〇二六年一〇月一五〜一六日
ところ 緑町公園 & ローズアリーナ

今年の福祉まつりは市制100周年事業協賛で健康ふくやまフェスティバルや緑化祭と同時開催で一〇月一五・一六日の二日間例年通り色々な団体が参加して展示や販売などが行われました。二日間共まずまずの天候で出かけるには問題ない状況でした。

市身連では昨年に続き障害者相談コーナーを予定して事務局は昨年作ったパネルの中身を変更したり展示物を用意し、相談員の全員に参加を呼びかけ当日に臨みました。しかし、今年市身連の指定されたスペースはローズアリーナの入口正面の広い通路から左に入った細い通路の奥からほとんどすぐのブースで、向かいには席もないパネルに展示だけの狭い通路となっていました。そのためまるで裏通りでそこまで入って見に来る来場

者は非常に少なくこれまでで一週間な二日間となりました。外では視覚協会も参加していますが、福祉まつりということでは

長者の来場が主でスタンプリイの子供連れも見かけましたが年々全体の人数が減っているようです。相談コーナーは午前午後を担当を四分割して対応しましたが、どの時間帯もブースにこられる人は最小で来年の検討をしたいところ

第四十二回

中・四国身体障害者福祉大会

とき 平成二十八年十一月十一日
ところ 山口市 山南総合センター

今年度の中・四国大会は山口県での開催で県身連は八月始めから募集され、福山市身連も独自のツアーを組んで参加をしようと計画を立てました。しかし山口大会はいつもと違い会場が五〇〇人まで



2018/11/11

カーで参加と結局七名が参加となりました。

県のツアーバスは尾道からの出発なので福山からの参加者は広島まで新幹線で行って参加等それぞれの都合で合流して、その日は下関海峡クルーズなど観光をし関門海峡を見渡せる宿に一泊してそこから翌朝会場に向かいました。

大会会場は隣にスポーツ施設と合わせて造られた比較的新しい会場ですが、収容人数が少ないので狭苦しい印象だったようです。

大会への来賓はほとんど代理出席だったようですが、特筆すべきは安倍首相の昭恵夫人が地元の大いとして来場し挨拶後、参加者と握手や写真撮影に応じ、SPが時間がないと対応に困る程だったようです。

大会後マイカーの二人は直帰しバスの人たちは瑠璃光寺など観光して広島からは都合のいいルートで帰ってきました。

今年度のスローガン等はやはり四月に施行された障害者差別解消法に関するもので、来年度は四国の高知県での開催予定です。

福山市制100周年記念

身体障害者スポーツ大会

日時 平成28年11月3日 会場 福山市人権交流センター
主催 NPO法人福山市身体障害者団体連合会

我々市身連は法人化して団体の活動を活発にし、団体を社会に認知されるため行政などの事業を委託されるべく何年か模索してきましたが、ほとんど不可能な状況で、それとは別に自分達自身でイベント等を開き社会参加や認知を広めるため何か行事をしようと財団法人義倉に支援を申請していましたが、この度認めていただきましたので障害者のスポーツ大会を開催いたしました。

福山市は今年市制100周年で前年来それに参加するイベントを募集していましたが、自分たちもと案が出ましたが、それにはもっと早くから計画や予算等を申請して認められないとだめで、連合会が具体的な計画が確定できた頃はずでにメ切からしばらくたっていて、100周年記念、と言う文言だけ使わせて貰うこととしました。しかし、身障団体が独自の活動をやりたいということに対して、福山市、福山市社会福祉協議会、福山市体育振興事業団、そして義倉からご理解いただき、後援いただくことになりましたので、大会の

広報や体育用品の調達にご協力いただき開催にごぎつけました。

市身連は法人化した時から各事業別に担当を決め事業にあたっていたのを、昨年各協会の活性化のためいくつかの協会で事業を担当しましたが、協会毎の活動力に大きく差があり、この事業については事務局長が大会委員長になり各協会役員が協力して対応する



事にしました。

2020年東京オリンピック・パラリンピックが決まり昨今テレビ等で障害者スポーツもいろいろ話題になっていますが、私たちが企画する大会はスポーツ大会と違うには少し面はゆいところもある「運動会」と言ったほうがいい競技ばかりですが、障害の程度もいろいろあり、また障害も手、足、目、耳とその部所もそれぞれ違っている人たちが一堂に集まってできるような工夫して企画し、ほとんどゲーム感覚の大会として募集しましたが、団体が希望していた障害者が町に出よう！体を動かして元気になろう！健常者と交流をしようという趣旨に賛同して競技者は74名の参加者が集まりました。

市や社会福祉協議会にはこの大会のチラシなどを配って協力してもらい、玉入れの道具など競技用具の保有されているものは体育振興事業団や公民館で借用して使わせてもらいました。

これらは順調に段取りが取れましたが少し慌てたのはポランティアの要請についてでした(次頁へ)

(スポーツ大会続き)

今回の行事にはボランティアの人たちの協力なくしては出来ませんので、当初から高校生などをお願いする予定で計画していましたが当日すでに予定があり、事業団から予定していた方たちも他の行事に重なり、結局社協を通して生命保険会社の方たち一社あげてのご協力を頂けることになり一安心となりました。ボランティア活動は初めてのよう聞いていましたが、競技の手伝いだけでなく、大会を気持ちよく盛り上げてもらいとても楽しく競技することが出来ました。

当日は前回の二月の行事の時のように極寒の日ではなくスポーツの秋らしい天気で、朝一番センターのドアが開かないというアクシデント以外、初めての企画初めてのボランティアさんとの共同作業にしてはほとんどトラブルなく進行出来、後援の福山市からは小川障がい福祉課長、社協からは橋本会長、体育振興事業団からは亀田事務局長、そして助成いただいた義倉からは業務の都合で少し遅れて藤原代表理事と皆様の「出席を得

ての開催となりました。

一つ一つの競技時間がどの程度かかるか執行部でも意見が分かれていたほど、読めませんでしたので気がかりとなっていました。ボランティアの人たちの用意もスムーズで結構早めに進行出来ましたので心配はいりませんでした。

一般社会と同様障害者団体も高齢化で特に役員は定年後の人たちで、この大会の競技はほぼゲームのようなものばかりで楽しく体を



動かす事を目標にしていますが、障害者といえども先日のパラリンピックを見られた方も多いと思います。車イスバスケット、車イスラグビー、卓球、アーチェリーなど一般の競技より激しいようなものもあり、スポーツ愛好者も大勢いることも知っていました。ありがたいと思います。

今回全てはじめての取り組みで目標とする行事になれるかと、行き当たりばったりの面が多かった

のですが、各方面のご協力と参加者もしっかりあってそれらしき大会に出来ました。ご支援いただいた市・団体の皆様参加者の皆様有難うございました。



福山市 人事

福山市の福祉事務所長を神原局長が兼務されていましたが、十一月より福祉部長兼福祉事務所長に小野 裕之氏が就任されました。(自立支援センター所長兼務)

平成二八年度広島県身体障害者相談員
広島県身体障害者団体連合会&
広島市身体障害者福祉団体連合会

合同宿泊研修会 開催

時 平成二八年十一月二十九日～三〇日
所 かんぽの郷 庄原 (庄原市新庄町)

広島県の身障相談員の研修が毎年ありますが、今年度その研修を宿泊研修とし尚且つ県と広島市の障害者団体の研修会として開催する計画を夏頃県身連から通知されていきました。

その後日程等具体的な案内が届き、それによると十一月二十九・三十の二日間、庄原のかんぽの郷にて開催し、宿泊なので昼食付きで一萬五千元、各地から何台かのバスで送迎しますとなっています。

福山市身連と相談協は各協会ごとに募集をして、団体役員はほとんど重なりますので、今相談員を引退した江草事務局長以外全員相談員一七名が応募し参加することになりました。その後、日盲連の

日程と重なる等で結局福山からは

一三名と会長の鎌刈氏がかんぽのバスで出かけることになりました。かんぽから県内に四台のバスで広島地区、三原・尾道等の送迎があり福山・府中は同便でしたが、府中の会長も日盲連に行かれ、第二便は福山の貸切になったリフト付きバスで送迎になりました。

二九日ほかほか陽気の中朝九時にはバスは人権センターに待機していて参加者は来た者からバスに乗り込み、次の神辺と新市で全員が揃い庄原へと向かいました。

かんぽの郷庄原は出来てから年数が経っていますが意外ときれいと言っては失礼かも知れませんが古びた感じはしませんでした。到着した私たちは早速予約してい

た昼食を食べて研修を受けることになっていて、腹いっぱいになると臉が重くなりそうと気にしながら食事を済ませました。

午後からのこの日の研修は相談員を対象に相談される人に対する心がけについての研修で、庄原市出身で広島での大学生活以外地元で暮らし、広島県協の部長までの仕事の後、今は庄原市の地域支援課のコーディネーターをされている 上田正之氏 が講師をされ

副題として「失敗が私に気づかせてくれた事」を自分自身が地元の人の世話の体験について話され、いくつかの実体験で自分の思いと本人の方の思いにいろいろ違いがあった事などを話されました。心得の原則として、バイスティックのケースワークの七原則を挙げられ、個性や本人の人間性を尊重し、相手の話をとことん聞くという事は、昨年、一昨年広島や松永で受けた安田女子大の新宅先生の話とも全く重なり、やはり相談を受けるということはその人の言いたい事をとことん聞くことに尽きると再認識しました。

この研修を終えて夕方、庄原ならではの国営丘陵公園のイルミネーションへ希望者を送迎しますと言われ大半の人がバスにのり到着後まもなくカウントダウンして点灯されるところを見ることが出来、それぞれ園内を散策して三〇分程して綺麗だったなと話しながらまたホテルに送ってもらいました。ホテルに帰るとそのまま懇親会場に行くように言われていて、六時半には (次頁に続く)



(前頁から続く)

地元庄原の参加者も含め百人近い参加者の懇親会となりました。

挨拶があつて宴が始まると地元「シラガーズ」という三人のグループによる演奏がなかなか面白く、懐メロの演奏や希望者の歌の伴奏もして楽しませてもらいました。

多人数のため会場が縦長に広く、遠くの人の顔がよく見えなかったり、カラオケの歌も反対側の席にはほとんど聞こえないようでした

が、全体に皆それぞれ楽しく親交を深められたようです。

翌日は午前中が研修で「お世話するのは大変ですか？」と題してこの日の研修は鎌刈会長が、研修会の予算や講師の人選も厳しく、エゴを考えて自ら話をするにしましたと講師をされて行われま

した。会長は自分が障害者になった思春期の頃の心の葛藤から、障害のため希望の将来を望めなかったことなどや、現在障害者団体の代表者としての仕事に関する話、又高中学校の理事長として若い人たちの教育についての逸話など、昨日の上田氏の体験談同様自分の実体験を踏まえての話で、レジメによると後半はグループ討議となっていました。その時間は三分の一ほどになるほど話は充実したものでした。

前回広島での宿泊研修に福山から6・7人の参加でしたから今回もそのくらいかと思っていれば倍増でしたが、全体で百人を超えるとは予想外でした。又それに対応できるホテルで幸いでした。

一〇月以降連絡会議事抜粋

市身連は毎月の連絡会の他にもスポーツ大会の開催や福山市への要望についてなどで間にも役員会等に対応してきましたが、その内容について主なものを抜粋してお知らせしておきます。

◎スポーツ大会の終了報告

義倉に支援いただき、市、社協等の後援を得て七〇名を越す参加者や三〇名以上のボランティアに支えられて開催できた、事業報告と決算報告を各後援団体等に報告を済ませた事

◎福山市への要望書の件

四月から差別解消法が施行されましたが、改めて障害者に対する対応は見え、市の施設やバリアフリーが少しでも改善されることを望み公民館等を障害者も利用したい。又、市の肝いりで始めた相談協を市は利用はするが団体として認めずなんの支援もない現状を踏まえ、認められない団体なら解散も視野におきたい。

◎県身連・県相談員協議会が今年

の研修を庄原市において宿泊研修として募集し

ている事に応募して福山から鎌刈会長を含め一四名が参加して、全体で百名を越える研修会が開催されました。

◎忘年会の開催

十一月にスポーツ大会を開催のため役員全員が動員されたりしていましたが今年忘年会の話が年末まで出ていませんでしたが、やはりやろうと直前から計画となり結果一七日みやびでと決まりました。募集中です。

編集委員会より

今年は無理なのかと思っていた忘年会が急遽決まりましたのでその記事を載せて発行したいと思いましたが、日程がぎりぎりなので次に回すことにしました。今年一年連合会の活動にご協力いただいた皆様ありがとうございました。新しい年が皆様にとっていい年となりますようにお祈り申し上げます。